

○中期計画の進捗を法人自ら管理し「中期計画進捗状況報告書」として取りまとめ

- ・中期計画(59項目)に掲げた評価指標(102項目)等の進捗状況について、令和7年度の実績を中心に、令和10年度までを見通した取組予定も記載
 - ・中期計画の項目ごとに、予定どおり進んでいるかなど、その進捗度を確認
- ⇒年度の終了時点が第四期中期計画の折り返し点となる令和7年度は、
中期計画の大部分を着実に実施するとともに、新たな課題に対応した取組も進め、概ね順調な進捗状況にある。

○令和7（2025）年度における主な取組

東京都立大学

- 「知のみやこプロジェクト」により研究を力強く推進する若手研究者を採用
- 独自の支援プログラムを立ち上げ博士後期課程学生に充実した支援を実施
- 英語で学位取得可能なT-GLIPs導入、GLiDe(共創学部)開設に向け取組を加速

東京都立産業技術大学院大学

- トップセールス等により専門職大学院にふさわしい学生を安定的に確保
- 国の支援事業により、次世代を牽引するDXリーダー養成プログラムを実施

東京都立産業技術高等専門学校

- 小中学生向け「ものづくりテクノスタジオ」を開催し高専の魅力を発信
- スタートアップ教育支援プログラム「地動計画」の活動を順調に拡大

法人運営

- 職員意見を踏まえ新たなワークスペースを設けるなど働き方改革を推進
- NEWS LETTER発行、古本等による寄附など、寄附金広報や受入方法を拡充

東京都公立大学法人 法人運営

Tokyo Metropolitan Public University Corporation

業務運営

■働き方改革の推進、効率的な業務運営体制の構築

職員の多様な働き方の実現や業務効率化を目指し、取組を推進しました。

- ・職員の更なるライフ・ワーク・バランス実現のため、部分休業制度や介護関連制度を見直し、**勤務時間途中での利用や時間・期間の拡充**など、より柔軟に活用できる制度へと改善
- ・令和6（2024）年度に実施した職員ワークセッションでの意見を踏まえ、都立大南大沢キャンパス本部棟に**職員用ワークスペースを開室**
- ・業務効率化推進のため、Microsoft 365 Copilotの活用事例収集や他の生成AIの試行を行い、業務活用を検討



【ワークスペース（半個室）】

■多様な人材活用の推進

都立大のT-GLIPs及びGLiDe（共創学部）等における教員採用に当たり、国際公募の実施など、**女性教員・外国人教員の積極的な採用活動**を行いました。

■情報化推進及び情報セキュリティ対策の体制等強化

- ・情報化推進に向けた中長期戦略「情報化推進ビジョン2035」、そのマイルストーンとなる2030年までの重点項目「情報化推進戦略2030」を策定しました。
- ・業務改善等スキル習得を目的にDX研修を開催し、延べ70人が受講しました。
- ・3か年計画として「情報セキュリティ対策基本計画」を策定したほか、AIのリスクに対処しつつ活用を推進するため「AI活用ポリシー」を策定しました。

財務運営・その他重要事項

■寄附金の獲得に向けた取組の強化

更なる寄附金獲得に向け、寄附金広報や寄附金受入方法の拡充を行いました。

- ・法人HPに「活動報告」ページを新設し、収支や使途の報告書、事業の実施状況を掲載
- ・都立大同窓会と連携し同窓会HPに案内を掲載
- ・一般社団法人日本承継寄付協会発行の遺贈寄附情報冊子「えんギフト」への掲載



【活動報告ページ】

- ・2大学1高専の「今」を発信するメディアとして各校のトピックスと併せて寄附金募集記事を掲載した『東京都公立大学法人NEWS LETTER』を発行
- ・書籍やCD等の不用品の買取金額が寄附されるサービス「キモチと。」を導入し、気軽に寄附を行える環境を整備



【NEWS LETTER創刊号】

■持続可能な社会の実現に向けた取組の推進

グローバル社会における共通課題である持続可能な社会の実現に貢献するための取組を推進しました。

- ・国内最大級の環境系展示会「エコプロ2025」へ出展し、**1,000人以上の来場者**に法人の取組をPRしました。
- ・南大沢キャンパスにおいて、照明のLED化や空調設備の高効率化に加え、環境負荷の低い電力へ切り替えることで、**CO₂排出量削減に大きく貢献**しました。



■アントレプレナーシップ教育の推進

起業家的な精神と資質・能力を携えた人材を育成することを目的とした授業科目である「**アントレプレナーシップ入門**」について、開講時期を後期から前期に変更し、都立大主催のビジネスアイデアコンテストである「**TMU EntreBloom ビジネスアイデアチャレンジ2025**」への参加を促進しました。

コンテストには応募条件を厳格化したにもかかわらず、24組・総勢85名から応募がありました。複数回のメンタリング等を含むプログラムを通じて、出場者のビジネスアイデアのブラッシュアップに寄与するとともに、優秀な成績を取めたチームには海外研修を提供しました。現地では起業家やベンチャーキャピタルからフィードバックを得る機会を設けるなど、コンテスト終了後もフォローアップを実施しました。



【本選会プレゼンの様子】

■TMU Innovation Hubを活用した産学公連携の推進

- ・「TMU Innovation Hub」における、産学公連携機運醸成イベントを開催し、地域コミュニティの形成を図るとともに、大学の垣根を低くすることで研究認知度を向上させ、教育・研究の一層の進展を促しました。
- ・独自のGAPファンドやスタートアップ技術支援など、スタートアップ等に対する各種の支援を提供する「**社会実装化パッケージ**」や、CXO人材による伴走支援を実施する等により、**新たに大学発ベンチャー8社が創業**しました。また、教員向けの集合型研修や学内ピッチの開催等を通じて起業に向けたマインド醸成と機運の強化を図りました。
- ・社会課題の解決に資する**産学公連携研究を10件実施**しました。

■ローカル5G環境を活用した社会実装の促進

5Gの新たなユースケースやサービスの社会実装及び産学公連携を図るため、都立大のローカル5G環境を実証フィールドとして民間企業等に無償提供するとともに、「5G活用アイデアソン2025」を実施し、社会サービス創出等を促進しました。

■情報教育体制の充実

- ・システムデザイン学部の学科再編を実施し、充実した体制のもとで情報教育を展開しました。大学院研究科についても再編に向けた準備を行いました。
- ・数理・データサイエンス副専攻コースについて、学部生修了者を初めて輩出し、大学院生と合わせて計41名の修了者を輩出しました。
- ・文部科学省認定の数理・データサイエンス・AI教育応用基礎プログラムについて、今年度初めて修了生を輩出し、知識やスキルのデジタル証明書であるオープンバッジを発行しました。

■GLiDe（共創学部）の開設及びT-GLIPsの導入に向けた取組

令和10（2028）年度予定の**新学部GLiDe（共創学部）**の開設及び令和9（2027）年度予定の**英語のみで学位取得ができるT-GLIPs**の導入に向け、多様な国・地域を対象としたプロモーション、既存の科目を英語で提供できるようにするための準備、海外留学先の開拓のほか、留学生受入環境の整備に向けた取組など、全学的な国際化推進の新たな取組として、着実に準備を進めました。【T-GLIPsのリーフレット】



■受入留学生・海外派遣学生の増加など国際化に向けた取組

- 留学生の受入れや学生の海外派遣など国際化の取組を進めました。受入・派遣人数の更なる増加を目指し、国内外への情報発信や受入プログラム及び経済支援の充実により、取組の一層の強化を図っていきます。
- ・海外の高等教育機関との交流の深化、短期留学生受入プログラムであるSATOMUの科目充実、協定校との交換留学生を対象とした新たな経済支援制度の立ち上げなどに取り組み、計583名の留学生を受入
- ・理学部生命科学科で**秋入学を実施**し、9名が出願、**2名が入学**
- ・留学意欲向上イベント、短期から中長期の多様なプログラム提供、派遣学生向け**奨学金の引上げや上乗せ**などを行い、延べ234名の学生を海外へ派遣
- ・中長期留学を必修としている国際副専攻コースについて、入学後に学内選考に合格することで履修を可能とする新制度を立ち上げ、履修者を5名受入

■国際金融人材の育成プログラムの導入

国際金融人材育成特別プログラムを正式に開講し、新規履修者が24名に達するとともに、3名の修了生を輩出し、プログラムを順調に発足させることができました。

■優秀な若手研究者の確保・育成

- ・分野を限定せず優秀な若手研究者を採用し、独立した研究者として自由に活動できる研究環境を提供する「**知のみやこプロジェクト**」について、令和7（2025）年度は260名の応募者から助教3名を採用しました。
- ・令和8（2026）年度着任に向けた公募からは、国際公募にするとともに、推薦状の提出を義務付けて要件を厳格化しました。

■研究力強化に向けた取組

- ・被引用率トップ10%論文割合について平成30（2018）年以降減少傾向となっていることなどから、学長の強いリーダーシップの下、組織的な戦略として「**研究力強化の緊急対策**」を打ち出し、制度や仕組みの見直しを通じて研究力向上に向けた取組を加速させることとしました。
- ・トップ研究者をコアとした研究体制形成について、候補者選定及び交渉を精力的に行い、2拠点目の組織形成に向けた準備を進めました。

■博士後期課程学生への支援

世界の幅広い分野で活躍できる高度専門人材の育成を目指し、経済支援に加え、多様なキャリア開発・育成支援等を行う都立大独自の施策として「**東京都立大学みやこMIRAIプロジェクト**」を開始しました。国の支援制度であるSPRINGとBOOSTの活用に加え、さらに幅広い学生に向けて博士前期課程から博士後期課程への円滑な接続と研究に集中できる環境の整備を進めました。

■外部資金の申請支援

提案公募型研究資金申請に関する学内セミナーの開催、採択者の取組紹介、過去審査委員へのヒアリング等を積極的に実施し、申請及び採択の増加に繋がりました。

■図書館が所蔵する貴重資料のデジタル化

図書館が所蔵する貴重資料を都立大図書館デジタルアーカイブとして公開を進め、公益財団法人図書館振興財団の助成対象事業として採択されました。

■自治体や外部機関との連携事業

既存の連携関係を継続するとともに、産技大の特色を生かした連携事業を推進し、**6件の新規連携事業**を実施しました。（以下は主なもの）

- ・品川区と連携し、孤独・孤立対策プラットフォーム推進事業へ教員が参画
- ・板橋グリーンカレッジ（板橋区）で「生成AIの概要及び活用の知識」を講義
- ・自治体職員のためのデータ分析実践講座（GovTech東京）において、「回帰分析を通じたデータ活用の基礎」について講義

■AIITフォーラムの開催

産技大の専門分野である「ICT」「ものづくり・デザイン」「起業・新規事業創出・事業継承」の最新トピックスを踏まえた新規テーマ4件のほか、これまで満足度等が高かった講座の期間限定再配信1件を含め、**AIITフォーラムを5講座オンデマンド配信し**、社会人等の**参加者86%以上から「満足」等の回答**を得ました。

■修了生コミュニティによる修了生とのネットワーク

3テーマの修了生コミュニティにより修了後の継続学修を支援しました。修了生の声を踏まえ、寄附金活用の仕組みの導入や研究環境の改善を行いました。

■研究推進及び研究成果の発信

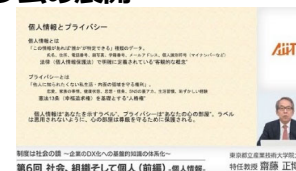
- ・AIIT高度専門職人材教育研究・IRセンターで研究成果を発表するシンポジウムを行い、産技大の教育手法の普及につなげました。
- ・大田区「おおた研究・開発フェア」への出展や、産技大の教員が講師となり自治体と共催したAIITフォーラム等を通じて、研究成果を広く発信しました。

■次世代のDXリーダーを養成する新たな教育プログラムの提供

文部科学省の「大学・高専機能強化支援事業」に「**次世代の産業技術界を牽引するDXリーダーのAIIT型養成プログラム**」が選定されたことに伴い、入学定員を15人増員するとともに、既存の学びの領域に3つの新分野（情報アクセラレーター、デジタル価値共創、DXサステナビリティ）を加え、新たなDXリーダー養成のための教育プログラム提供に取り組みました。

■多様な人材が学ぶことのできる正課外プログラムの展開

文部科学省事業への選定を受け、従来からのプログラムに加え、産業構造と社会の変遷を体系的に学ぶことができる**連続講座「DX講座シリーズ 制度は社会の鏡 ～企業のDX化への基盤的知識の体系化～」**を新たに実施しました。



【正課外プログラムの様子】

■教育の質の更なる改善

在学生対象のPBL履修前後アンケートや、修了後10年以内の修了生アンケートの分析結果等について教育研究審議会等で報告し学内で共有を行ったほか、運営諮問会議の答申を受けて、教育の更なる改善に取り組みました。

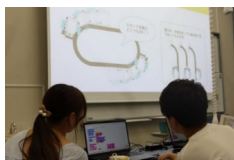
■専門職大学院にふさわしい学生の安定的な確保

入学定員15人増に伴い、**学長等によるトップセールス、SNSや動画配信を活用した広報活動の強化**を行いました。令和7（2025）年度入学に係る出願者数は、開学以来2度目の200人超となり、専門職大学院にふさわしい学生を安定的に確保することができました。

東京都立産業技術高等専門学校

■小中学生向け「ものづくりテクノスタジオ」を初開催

品川区との連携により、**小中学生を対象にものづくりの楽しさを体験**してもらう講座を開講し、保護者も含め多くの参加者を集めました。参加者アンケートでは「**来年も参加したい**」と**9割近くが回答し高い評価**を得ました。



【ものづくりテクノスタジオ】

■スタートアップ教育支援プログラム「地動計画」

将来的な「起業」を念頭に参加学生個人が課題を設定し解決を目指す**教育支援プログラム「地動計画」**では、2つのコースを前年度を上回る20名が修了したほか、修了後のフォローアップとして新たに自主的な活動への支援も行いました。

■電気電子エネルギー工学コースへの名称変更とカリキュラム改定

年次進行を考慮したカリキュラムの検討や施設整備等を進めました。コース名変更後1期生のコース希望調査では、定員を上回る希望がありました。

■卒業生・修了生との連携強化

- ・同窓会と共催で卒業生を含む技術者等を対象に「**ONE DAY RECURRENT講座**」を開催し、新企画の「異業種交流会」では活発な意見交換が行われました。
- ・実社会で活躍する卒業生を講師として、在校生向け研修会等を実施しました。

■共同研究及び共同プロジェクトの実施

- ・「第四期共同研究～専攻科Co-Labo.」において、都立大と6件の共同研究を行いました。
- ・医工連携共同研究を進めるため、区立病院との共同プロジェクトを実施しました。

■コース横断型の未来工学教育プログラムによる技術者の育成

IoT + AI技術の社会実装をテーマにした**未来工学教育プログラム**では、アンケート結果を踏まえて授業内容を見直し、カリキュラム改善を図りました。受講後アンケートでは、多くの受講者が情報処理能力や論理的思考力の向上を実感しており、大多数が本プログラムに参加してよかったと回答しました。

■グローバルに活躍できる技術者育成の推進

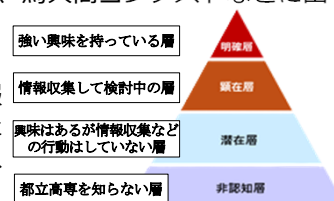
2つの海外体験プログラムに合計69名の学生が参加し、フィールドワークや英語学習等を通じて、課題解決力やコミュニケーション能力の向上を図りました。また、派遣先の多国化に向け検討し、次年度のプログラムに反映させました。

■学生の主体的な課外活動への支援

教員による技術指導や施設の活用を通じて、学生の主体的な課外活動を支援しました。APAC HPC-AI Competitionにおいて、**大学を含む日本勢として初めてBest HPC Performance賞を受賞**したほか、NHK高専ロボコン全国大会、全日本学生室内飛行ロボットコンテスト、鳥人間コンテストなどに出場し、各分野で高い成果を上げました。

■ターゲット層を広げた戦略的な広報活動

新たに小学校高学年及びその保護者にまで広報対象を広げ、公式HPを視認性と訴求力を高めた内容に改修し、動画や親しみやすいトピックスの発信、Instagram上に広告を掲出するなど、**積極的な広報活動**を行いました。



【高専の認知状況】